

1. 科目名（単位 数）	介護過程Ⅰ（2単位）	3. 科目番号	SNMP2121
2. 授業担当教員	岡田 稔		
4. 授業形態	講義・演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	介護過程の意義と目的を理解し、ICFの概念をふまえて生活支援活動における介護過程の展開が行えるように進めていく。さらに人間の尊厳、自立支援、心身機能・構造をふまえた展開が行えるようにその重要性を学ぶ。また、廃用症候群とリハビリテーションの考え方についてもふれて学習していく。 介護過程において最も重要であるアセスメントについても概略的にふれる。その際に守らなくてはならない対象者の権利擁護についてもふれていく。介護過程の展開においては、他職種との連携が重要であることもふれながら進めていく。		
8. 学習目標	1. 介護過程の意義と目的を理解し、説明することができる。 2. ICFの概念を理解し、介護過程の展開に活かすことができる。 3. 生活支援技術及びコミュニケーション技術における介護過程を理解し、説明することができる。 4. 人間の尊厳、自立支援、心身機能・構造をふまえた介護過程を理解し、説明することができる。 5. 介護過程におけるチームアプローチの重要性を理解し、説明することができる。 6. 介護過程におけるアセスメントの重要性を理解し、説明することができる。 7. 廃用症候群について理解し、説明することができる。 8. 介護過程におけるリハビリテーションの重要性について理解し、説明することができる。		
9. アサシメント （宿題）及びレポ ート課題	授業中のディスカッションを踏まえた発表、または課題レポート等を課す。		
10. 教科書・参考 書・教材	【教科書】使用しない。 適宜資料を提示しながら進めていく。 【参考書】大川弥生「よくする介護」を実践するためのICFの理解と活用 中央法規		
11. 成績評価の規準 と評定の方法	○成績評価の規準 1) 介護過程の意義と目的を理解し、ICFの概念をふまえて生活支援活動における介護過程が理解できたか。 2) 人間の尊厳、自立支援、心身機能・構造をふまえた展開が行えるか。 3) 廃用症候群とリハビリテーションの考え方が理解できたか。 4) 介護過程におけるアセスメントについても概略的に理解できたか。 5) 対象者の権利擁護と他職種との連携についても理解ができたか。 ○評定の方法 〔レポート 授業への積極的参加度、を総合的に評価する〕 1. レポート 40％ 2. 授業態度 30％ 3. 課題提出 30％		
12. 受講生への メッセージ	領域「介護」、「こころとからだのしくみ」、「人間と社会」で学習してきたこと、学習していることを用いながら、介護実践を根拠に基づいて行えるよう、本科目での内容を十分理解して欲しい。		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	テーマ「介護過程の意義と目的」 介護過程とは何か、介護過程の必要性を明確にし、具体的に介護過程が介護福祉士によって、展開され、活用されていくかを学習する。介護過程とはなにかグループで話し合い定義してもらい発表する。	事前学習	シラバスをよく読み、本科目の内容を理解する。介護過程Ⅰの振り返りを行なう。
		事後学習	授業の内容を基に介護過程を説明できるようにする
第2回	テーマ「ICFの概念とは」 ICFとは何か、自らの生活に視点をおいて、ICFとの関連を具体的にしながら、ICFの概念を学習する。ICFの概念図に各人の生活の具体的な内容を当てはめて書いて整理してもらい、理解の内容を確認する。	事前学習	ICFの概念を説明できる。
		事後学習	授業の内容を基にICFの概念を具体的に説明できるように整理する
第3回	テーマ「ICFの概念と介護過程の展開①」 介護実践を行う上で、介護過程の展開をどのようにICFの概念を用いて展開していくか具体的に学習する。	事前学習	ICFと介護過程を考える
		事後学習	授業の内容を基に介護過程を展開する上でのICFの整理を行う
第4回	テーマ「ICFの概念と介護過程の展開②」 具体的な事例を用いて、ICFの概念を用いて介護過程の展開を行い学習する。介護が必要な人に対して、健康状態、心身機能・身体構造、活動、参加、環境因子、個人因子の視点で整理してもらう。	事前学習	介護過程を展開する上でのICFの具体的な活用を考える
		事後学習	授業の内容を基に介護過程を展開する上でのICFの具体的な活用を整理する
第5回	テーマ「生活支援技術と介護過程」 排泄・入浴・食事・着脱等の生活行為と移動・移乗・起居動作の基本動作との関連を含めて、生活支援技術における介護過程の考え方を学習する。	事前学習	生活支援技術と介護過程を考える
		事後学習	授業の内容を基に生活支援技術の実践と介護過程の関連を整理する

第6回	テーマ「コミュニケーション技術と介護過程」 生活支援技術の提供において、介護過程の展開時のコミュニケーションは基本となる場所である。そのことから、介護過程の展開におけるコミュニケーション技術の活用を具体的に学習する。	事前学習	コミュニケーション技術と介護過程を考える
		事後学習	授業の内容を基に介護過程におけるコミュニケーション技術の重要性を整理する
第7回	テーマ「人間の尊厳、自立支援と介護過程」 介護過程を展開する上で、人間の尊厳の理解、自立支援の理解を行い重要な視点である。介護過程を展開していく上でどのように取り入れていくか、考え方について具体的に学習する。	事前学習	人間の尊厳、自立支援を考える
		事後学習	授業の内容を基に介護過程における人間の尊厳、自立支援を整理する
第8回	テーマ「心身機能・構造と介護過程」 生活支援活動時には、こころとからだのしくみの理解が重要であることを認識して、介護過程の展開が行えるよう学習する。	事前学習	心身機能・構造と介護過程を考える
		事後学習	授業の内容を基に介護過程における心身機能・構造を整理する
第9回	テーマ「廃用症候群について理解」 廃用症候群を理解し、廃用症候群の悪循環とその原因とメカニズムを学び、悪循環から良循環に変えていく支援について学ぶ。その中で生活における介護の視点を理解していく。	事前学習	廃用症候群について考える
		事後学習	授業の内容を基に介護過程における廃用症候群を整理する
第10回	テーマ「介護過程とリハビリテーション」 リハビリテーションに繋がる生活における介護福祉士が担う役割を理解し、介護過程におけるリハビリテーションの重要性を学習する。	事前学習	介護過程とリハビリテーションを考える
		事後学習	授業の内容を基に介護過程におけるリハビリテーションを整理する
第11回	テーマ「介護過程とアセスメント①」 介護過程に必要なアセスメントは何かを理解し、アセスメントの視点、必要な情報とは何か、情報収集の方法、収集した情報の整理の方法を学習する。	事前学習	アセスメントとは何かを考える
		事後学習	授業の内容を基に介護過程におけるアセスメントについて整理する
第12回	テーマ「介護過程とアセスメント②」 情報の収集と整理された中で、対象者が自分らしく生活するための課題・ニーズは何か、分析することが必要であり、その方法を概略的に学習する。	事前学習	課題・ニーズとは何かを考える
		事後学習	授業の内容を基に介護過程における課題・ニーズについて整理する
第13回	テーマ「介護過程における記録」 介護過程における記録は、展開を行う上でのアセスメント、課題分析、計画書であり、実施後には実施経過記録、評価等が全て重要であることを学習する。	事前学習	介護過程における記録について考える
		事後学習	授業の内容を基に介護過程における記録について整理する
第14回	テーマ「介護過程の展開とチームアプローチ」 介護過程を行うにあたり、アセスメント及びカンファレンス等において、他職種との情報の共有や連携が必要であり、実施においても同様であることを学習する。	事前学習	介護過程の展開とチームアプローチについて考える
		事後学習	授業の内容を基に介護過程におけるチームアプローチについて整理する
第15回	テーマ「介護過程と権利擁護、法令順守」 介護過程を行うにあたり、個人情報収集することから、対象者の人権を守り、適正な方法で実施していくことを学習する。	事前学習	介護過程と権利擁護、法令順守について考える
		事後学習	授業の内容を基に介護過程における権利擁護・法令遵守について整理する